

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	873300735		
法人名	有限会社 あおいとり		
事業所名	グループホーム あおいとり		
所在地	那珂市飯田2388-5 (電話) 029-295-5677		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月20日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】 (平成20年4月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋・木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1		要介護2	2		
要介護3	11	要介護4	3		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 83.7 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	越田医院 水口歯科 いばらき診療所
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ここが私の家と思える環境を整え、自分でも入りたいと思えるホームをつくれます」との理念のもと全職員で支援をしている。  
職員は利用者から元気をもらっているとの思いでケアにあたり、利用者は職員の思いやりに満ちたさりげない行動と気遣いで穏やかで安心した生活を送っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点の指摘を全職員で検討しているが、具体的な改善の記録をするまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を理解しているが、具体的な検討や実践をするまでには至っていないので全職員で課題を検討し、改善に着手することを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者や家族代表、民生委員、区長、地域包括支援センター職員、市介護福祉職員が委員となり、運営推進会議を開催する予定になっている。 定期的に運営推進会議を開催し、会議の意見を活かした取り組みを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に利用者の暮らしぶりを報告している。 訪問できない家族には、請求書と一緒に毎月発行する「ホームたより」に暮らしぶりを手書きでそえて送っている。 意見を受け入れられるよう「意見箱」を玄関先に設置している。 契約書に苦情申し立て行政窓口の電話番号も明記することを提案する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の敬老会や祭りに参加するとともに、ホーム主催による敬老会に地域の方々を招待している。 中学生や社会人のボランティアを受け入れている。 地域の方々が農作物を届けてくれるなど、地域と密着している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、設立当初からの理念を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々理念の意義を話し合うとともに、全職員が理念を理解し、かつ共有し実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や祭事に参加するとともに、ホーム主催の敬老会に地域の方々を招待している。 中学生や社会人のボランティアを受け入れている。 地域の方々が農作物を届けてくれるなど、地域に密着している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を理解しているが、具体的な検討や実践をするまでには至っていない。	○	全職員で課題を検討し改善に着手することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や利用者の家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、市介護福祉職員が委員となり、運営推進会議を開催する予定になっている。	○	運営推進会議を定期的に行い、会議の意見を活かした取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とはホームの状況やケアサービスの様子を伝えるとともに相談するなど、サービスの質の向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりを報告している。 訪問できない家族には、請求書と一緒に毎月発行する「ホームたより」に暮らしぶりを手書きでそえて送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を受け入れられるよう「意見箱」を玄関先に設置している。	○	契約書に苦情申し立て行政窓口を明記しているが、電話番号も記載することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職の際には2ユニットの職員配置に配慮し、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。	○	「ホームたより」に離職者の報告及び新人紹介などを掲載し、家族に職員の異動を知らせることを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が必要とした場合及び職員の申請により研修を受講している。 研修受講者は研修内容を報告書にまとめるとともに、職員会議などで報告している。 定期的な勉強会を実施している。	○	職員の希望や段階に応じた、計画的な研修受講が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は外部研修等の機会に意見交換を行うとともに、介護計画作成者は地域の同業者と積極的に交流するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	地域同業者のサービスの質の向上を図るため、近隣の同業者に呼びかけ連絡協議会を設立したり職員間で交流し、更なるサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームに来てもらい昼食を一緒に食べ、職員と顔を合わせるにより利用者の不安を軽減し、馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々利用者から教えてもらう場面が多く、利用者は人生の先輩であるという考えを職員で共有し敬っている。 ともに楽しめる場面づくりに配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と接しながら、言葉や表情などから思いや傾向を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の日々の様子を記録するとともに会議の場で課題を検討しているが、家族の意見を反映するまでには至っていない。	○	利用者の介護計画の必要性を家族に理解してもらい、家族の意見を反映できる体制づくりを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の達成状況や効果などを評価するとともに、利用者の状態変化や状況に応じ見直しをしている。 記録は見やすくなっているが、アセスメントやモニタリングを作成していない。	○	より良いケアの実践のため介護計画作成の原点に戻り、介護計画を全職員で検討することを期待する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応し、利用者の満足度を高めるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に利用者と家族で受診する医療機関を確認している。 ホームの協力医療機関以外のかかりつけ医受診は家族が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に終末期の受け入れについて口頭で説明し、ほとんどの利用者及び家族が終末ケアを希望していることを職員は理解している。	○	利用時に口頭での説明だけでなく、重度化に伴う意思確認書を作成するとともに、ホームが対応するケアについてのマニュアル作成を提案する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応をしている。 個人情報全職員が守秘義務を理解し、外部調査に対しても家族の了解のもと提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者一人ひとりの意思確認を行い、個別的な支援をしている。 職員は利用者の生活歴等の把握をしているが、記録がない。	○	利用者の生活歴や現在把握している情報を職員間で共有できるように、記録することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家製野菜と地域の方々の頂き物及び職員と利用者で購入した食材により献立を決め、バランスの取れた食事となっている。 食器は磁器を利用し職員と一緒にの食事は利用者にとって楽しい時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者のペースで毎日、いつでも入浴できるよう支援している。 入浴拒否の利用者には職員が思いやりのある言葉かけで入浴を促している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力にそった家事作業や趣味を活かした場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は毎日の散歩に心がけ、季節に応じたお花見や地域の祭事等に参加している。 海に行くなど、利用者の希望にそったドライブは利用者にとって楽しみであり癒しとなっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底し、一人ひとりの日々の気分や状態をキャッチすることにより、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者全員参加で避難訓練及び消火訓練を年2回定期的に実施し、1回は消防署の協力を得ている。 避難経路を掲示している。	○	夜間の訓練を実施するとともに、訓練の際は地域に知らせて協力してもらうため、運営推進会議を活用するなど日ごろから地域の人々の協力が得られる体制づくりが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は1日を通じた食事量や栄養バランス、水分量を確保できるよう習慣に応じて支援しているが、食事量を記録するまでには至っていない。 水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。	○	食事量を記録することが望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花や観葉植物を置いている。 広い居間にピアノや無垢の大きな飾り棚を設置し、利用者が家庭と同じように生活できるよう配慮している。 ソファを多くの場所に設置し、利用者は居室以外の空間で思い思いに楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に家族の協力を得、利用者が使い慣れたたんすや鏡台、ミシン、仏壇等馴染みの物品を居室に持ち込み、居心地良く生活ができるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。